

WORK[®]

CARトップ 楽しいクルマの雑誌

MAGAZINE

CARトップ2017年4月号特別付録



原点と深化

40周年を迎えたホイールメーカー、ワーク



WORK HISTORY

40周年を迎えて、ワーク社長に直撃インタビュー!!

田中知加

ワーク 代表取締役



PROFILE

創業者、田中毅氏のひとり娘で、京都外国語大学卒業。持ち前の英語力を生かした職業を経験後、ワークで海外販売部門の設立に尽力。先代が急逝した2015年、代表取締役に就任

ワークはずっと変わらない現場主義、お客様目線です

「40年を迎えたからといって、何が変わったかという点、実は何も変わっていません。創業当時からワークはずっと、現場主義、お客様目線。現場で情報を集めて企画にインプットし、デザイン、販売する」というシステム。だから先代は、これはキミなら買つか、売りたいではなく買いたいと思うものを創っているか、が口癖でした」

情報収集のため、代表となった現在でも可能な限り、イベントやショーには足を運ぶという田中氏。現場で実際に空気感を感じ、それを開発に生かす。田中氏だけでなく、ワークのスタッフすべてに、その理念は浸透しているという。ただしそれだけでなく、各ブランドを多彩に生み出し続けることができたわけではない。他メーカーと異なるのは、開発に対する考え方。「保安部品としての品質や強度は絶対。けれどもやっぱりオシャレ



「ワークはホイールのデパート。トレンドのあるトコロに作り続けていく」

も大事。だからワークは必ず、デザイン性を最重視しています。そのうえで、どんなお客様が来られても、それならコレを、と要望に応えられるラインナップをそろえておきたい。レースやヤンチャ系だけでなく、ラグジュアリーも、コアも。つまりワークは、ホイールのデパート。あらゆるトレンドに対して、わくわくドキドキするモノを提供する会社なんです」
「これこそがワークのオリジナリティ。どんなジャンルにもコミットできる、懐の深さが強みなのだ。40周年に際し、大掛かりな式典などは行わない。しかし顧客に向け、プレゼントを用意するなど、「ワークわくわくキャンペーン」を実施中。また2017年は40周年を記念したエキイップの新作モデルをはじめ、かつてないほど大量の新作を発表するなど、やはり特別な一年となっているようだ。」
「今は、ワークらしさの再認識が必要と考えています。ワークという社名は、作品、つまり芸術作品でありたいという気持ちから名付けられました。が、私個人としてはマンパワーの会社、チームワークのワーク、だと思っています。一丸で、わくわくしてもらえるモノを創る。そのためにも今後は競技活動など、伝えてこなかった私共の背景も、お見せしたいですね」



1977/8
Equip

←ワークの名を世に知らしめた記念すべきファーストモデル。手裏剣を彷彿とさせる鋭い4本スポークは、往年の走り屋たちに強く愛された



↑リムがキラキラと輝いているホイールを創りたい、そんな発想から生まれた。初代エクイップ誕生から約一年後にエクイップはスリーピースで展開され、ヒット作を連発した



1977~1989

創成期の熱狂



1985/2
EWING I

↑シーンを席巻したエクイップの次に、大ヒットとなったのがイーウィング。より洗練度が高められたスポーティなメッシュデザインで人気に



1985/11
Crag

↑クロカンSUVが人気を集めた1985年、タフでワイルドなギアとして誕生したのがクラッグ。力強さを前面に押し出した斬新意匠で話題に

レース用モデルを市販車に
始まりはそんな発想の転換

ワークの創業者である田中毅氏は当時、ハヤシレーシングでレース車両の製作に携わっていた。レースに、クルマに、すべての情熱を注ぐ青年だったが、オイルショックの影響もあり、レース以外に活路を見出すべく奮闘していた。

そのとき耳にしたのが、レース用ホイールを市販してみても、という声。アフターホイールという概念すらおぼろげな時代であったが、そこに彼のアンテナが反応する。砂型を用い、自身のアイデアをカタチに起こす。完成したの

は名作、ハヤシストリートだった。これを機に田中毅氏は、ホイール製作という仕事に魅了されてしまう。レース活動が中心だったハヤシレーシングではアフターホイールに全力を注げないと、一念発起して独立、1977年3月に大阪で株式会社ワークを立ち上げた。デザインに特化して開発される斬新なホイールたちは、すぐさまクルマ好きたちからの注目を浴びた。手裏剣を思わせる4本スポークのファーストモデル、エクイップがいままでの大ヒット。続くイーウィング・シリーズでも好評となり、ホイールメーカーとしてのワークの歩みが始まった。

WORK 40年の物語

ここから歴史は始まった

リムのワーク、メッキのワーク、組み付けホイールのワーク。
さまざまに賞賛されるそんなトップメーカー、ワークが、創立40周年を迎えた。
ワークはいかにして生まれ、成長したのか。40年間の歩みを追ってみた



1985/2
EWING I&III

↑イーウィングはメッシュのI、5本スポークのⅢが2作同時発表。後にスポーツ寄りに振ったRSα、RSβも発売されるなど人気を博す

▶WORKの歩み

- 1977/3 田中 毅氏が大阪府東大阪市高井田に「株式会社ワーク」を設立
- 1979/12 スリーピース工場を大阪府東大阪市に開設
- 1983/2 レーシング部門川中工場、福岡営業所、神奈川営業所開設
- 1984/2 仙台営業所/広島営業所開設
- 1986/8 志紀工場開設
- 1988/5 川中工場を塗装部門に変更。岡山工場開設



●岡山第一工場



●岡山第二工場



←東京オートサロン2017の会場内には、時代を創ってきたワークの懐かしき名作たちがずらり。多くのファンたちから注目を浴びた

2009/2
GNOSIS



↑欧州上級スポーツとのマッチングに特化したグノーシスは、鍛造モデルなど、これまでのワーク製品とは一線を画したことで話題に。コンケーブのハシリでもある

2008/7
SCHWERT

↑剣をモチーフとしたシャープな造形で、幅広い層から支持を受けるシュヴァートは2008年に発売。遺伝子は、デュランダールなどにも派生



1995/6
MEISTER

↑現在でも多くのファンを抱える伝説的ブランド、マイスターは1995年に登場。サーキットスペックをストリートへ転換した異色作



1996/8
VS

↑日本発祥のジャンル、VIPをターゲットとして誕生したのがVS。深いリム×洗練のフェイス、というVIPの醍醐味を徹底追及



1993/9
REZAX

↑1993年に発売されたレザックスは、これまでとはひと味違うドレッシーなデザインで話題に。これを機に、ブランド多様化が本格化

2005~2016 未来への道しるべ



2012/1
DURANDAL

↑マシニング処理をデザインの一部として取り入れた、革新的な意匠で人気を集めたデュランダール。ワークの加工技術の高さを証明したモデルでもある

要望に応え、欲しいを創る
ワークの信念は、不変

2005年以降は、成熟の時代。これまで以上に、多様なジャンルのブランド展開が本格化した。ユーロラインにワークエモーション、グノーシス、さらにはランベックと次々に人気ブランドを構築。1mm単位でのオーダーインセットや、新しくレピッドなカラーのオプション設定を採用。スペシャルオーダープログラムの心響(シオン)は二入のすべての要素をオーダーできるなど、ユーザーの欲しいという気持ちに応えるための工夫を実現してきた時代でもある。

ワークの40年間は、生き物とも呼ばれる難解な製造開発に一貫して取り組み続け、精度の高さが問われるマルチピース構造に挑戦し続けてきた40年。それと同時に、ユーザーの目線で、ユーザーの買いたい、に添えてきた40年だ。だからこそワークには、長く愛されるブランドたちが、あらゆるジャンルで、こんなにも多彩に顔をそろえているのかもしれない。

東大阪のモノづくり工場としてスタートした同社は現在、海外約23カ国に代理店を抱えるなど、世界の組み立てホイールメーカーとも評される。ただ根本は不変。「欲しい」を創る。それがワークだ。

1990~2004 めざましい飛躍



2003/1
LS

↑空前のラグジュアリーブームに先駆け、ラグジュアリーをテーマに開発されたのがこのLS。美しく輝くディープなメッキリムが一世を風靡



1997/8
EMITZ

↑1997年に発表されたイミッツは、40本のネガティブラウンドスポークという衝撃的なスタイルで注目の的。車種を問わず、人気を誇った

量産態勢を整え、飛躍
創るに徹した本格発展期

ワークはあくまでデザイン性とトレンドを追求したホイール開発に軸足を置くが、実は創業からわずか6年後の1983年には、レーシング部門も開設している。これは、ホイールは命を預かる重要保安部品である、の信念から。強度とクオリティを製品へとフィードバックするため、ワークは早くからさまざまなモータースポーツへ積極的に協力、貴重なデータ蓄積にもチカラを注いできたのだ。

1990年代に入ってもワークはヒットを連発。レザックスやイ

ミッツ、マイスターといった現在でも人気を誇るブランドたちは、この頃に生を受けている。これに伴って、国内工場の整備にも着手。量産態勢を整えることで、ホイール製造メーカーとしてのレベルをさらに引き上げることになった。

この頃になると、その卓越した製造技術から生まれる精度の高い製品から「リムのワーク」「組み付けホイールのワーク」と国内外の評価が急伸。2003年にはISO9001の認証も取得するなど、優れたデザイン性と信頼のクオリティを兼ね備えたアフターメーカーとして広く知られ、トップメーカーの仲間入りを果たす。

▶WORKの歩み

- 2005 プロダクション世界ラリー選手権チャンピオン獲得。エモーション鍛造IPで参戦
- 2011 インターコンチネンタル・ラリー・チャレンジ (IRC) で新井敏弘選手がチャンピオン獲得
- 2014/8 第二営業部新設。開発部新設
- 2015 全日本ラリー選手権シリーズチャンピオン MCO
- 2015/8 田中知加氏が代表取締役役に就任
- 2016 スーパーGT ゲイナーGTR&AMG GT3 鍛造 IPで参戦
- 2016 86レースダブルタイトルを獲得 (MCO)



●プロダクション世界ラリー選手権 出場 インプレッサ



●全日本ラリー選手権出場 インプレッサ



●ゲイナーGTR

2000/11
Euroline

↑上級セダンオーナーを中心に、ワゴン&ミニバン界までを席巻したのがユーロライン。時代を創ったまさに記念碑的なディッシュユだ



2000/3
WORK
EMOTION

↑スポーツホイールのベンチマーク的存在であるワークエモーションは、2000年に誕生。ピュアな躍動デザインがスポコン系で話題に

▶WORKの歩み

- 1990/7 企画開発部門AMP開設
- 1992/7 大宮営業所開設
- 1990年代後半 戸田レーシング F3にマグネシウム鍛造IPで参戦
- 1996年 テストアンドサービス GTO マイスターS1で参戦
- 2000/11 堺工場を開設
- 2001/8 札幌営業所を開設
- 2002年 JGTC マクラレン、BMW、ボルシェ等でエモーションのプロトタイプマグネシウムIPで参戦
- 2003/12 品質マネジメントシステム ISO9001の認証を取得



●戸田レーシングF3



●テストアンドサービスGTO



●JGTC マクラレン

2016/1
Lanvec

↑ノームコア=究極の普通、をテーマに開発されたランベック。奇抜に着飾るのではなく調和することでオーラを放つ、新世代モデル



SOURCE OF WORK'S POWER



幾重にも検品を重ね、製品は出荷される

↑すべての工程に人の手が加わるため、その都度、担当者が目で見て外観を検査し、回転させて振れ出しを検査する。最低でも7項目以上に担当職人自らが押印するなど、ひとりひとりの責任感も強い



3ピースの組み立ても堺工場でおこなう

↑堺工場では2ピース、3ピースどちらものホイール組み立てを行なう。例えば3ピースなら、リムとディスクの合わせ方で複数の方法を使い分け、ピースボルトの締め込みも熟練の職人が手作業で施す



ワーク 製造部 堺工場
工場長 北野克裕氏

「機械ではできないような見えない技、手間、想いが製品には詰まっています。信頼をどのように商品に込めるか、も私達のこだわりですね」

ことを忘れずに、大事に作業することが堺工場のモットーですね」
人の目によるチェックは、押印が必要な部分だけでも最低7項目以上。ホイールのキモとなる振れ出しも、何度か何人もが繰り返す。それだけ厳重に作業を行ないながらも、1セットごとにサイズやカラーが異なるホイールを正確に組み上げていく。
「振れ検査、外観検査、バランス検査、機能検査等、驚くほどの回数を繰り返します。人のチカラ、手作業に、うまく機械を取り入れて、信頼できる商品を作る。それがワークのやり方です」
驚くほどの手間をかけながらも、オーダーメイドにも対応できる。ワークの強み、ココにあり、だ。

ワークの高い
製品クオリティの源は
ファクトリーにあり

創業以来、鑄造製法に取り組み続け、マルチピースの組み付けホイールを数多く生産してきたワーク。特にその鑄造技術への評価は高く、生き物とも呼ばれることがある難解な鑄造製法を巧みに操り、鑄造でしか表現できないラインやデザインを生み出すことにかけては他の追随を許さない。事情通の間で「鑄造のワーク(リムのワーク)」と呼ばれる所以は、その技術力の高さゆえなのだ。
そんなワークの堺工場で、ホイールが完成するまでを見学してきた。ここ堺工場は塗装までが完了した部材が集まり、それを組み上げて検品、梱包、発送までを行なういわば最後の関所。驚いたのはそんな最後の関門が、ほとんどアナログ作業であったことである。
「検査、溶接前のブラッシング、ディスクとリムの仮組みから溶接、ピースボルトの締め込み。作業のほとんどは熟練の職人が、自分の手で行なっています。そしてそれぞれのそれぞれの作業ごとに、責任者が出来映えを確認して、押印します。つまりすべての職人が、同時に検査員でもある。作業者にとっては数百のひとつであっても、お客様にとっては宝物になる一本。その

Text●酒井賢次 撮影●清水良太



マットシルバー



マットカーボン

MEISTER L1 3PIECE

[マイスター・エルワン・スリーピース]

マイスターS1の正常進化系

スポーツ系ドレスアップの主役的存在、マイスターにも新作が登場。人気作、S1の装いを継いだ王道の6本スポークで、力強い段付きリムや華やかなピアスポルトなど、3ピースらしい力感とプレミアム感とが両立されているのが特徴。マットカーボンは攻撃力、大!

■SIZE&PRICE

18インチ (7.0~16.0) ●¥76,000~¥94,000
19インチ (8.0~16.0) ●¥88,000~¥104,000

■COLOR

マットシルバー、マットカーボン



↑
スペックの詳細はコチラ!



グリミットブラック



アッシュドチタン



マットブラック



ホワイト

WORK EMOTION M8R

[ワークエモーション・エムエイトール]

超魅力的なスーパーコンケーブモデル

ワークエモーション初となるメッシュデザインが採用された注目モデル。鍛え上げられたピンラインスポークが精悍で、センターへ向かってダイナミックに落とし込まれるコンケーブ形状もまさに最旬。スポークの足長感も強く、とにかく躍動的

■SIZE&PRICE

17インチ (7.0~9.0) ●¥42,000~¥49,000
18インチ (7.5~10.5) ●¥46,000~¥55,000
19インチ (8.5~10.5) ●¥50,000~¥57,000

■COLOR

アッシュドチタン、マットブラック、ホワイト、グリミットブラック

↑
スペックの詳細はコチラ!



ブラッシュド



コンボジット
バフブラッシュド



バフフィニッシュ



マットシルバー



マットブラック



装着写真はイメージです

GNOSIS GR205

[グノーシス・ジール205]

2×5を極めたユーロスポーツモデル

高品位ユーロスポーツカーをターゲットとするグノーシスからは、GRシリーズの最新モデル、GR205がエントリー。細身ながらも立体感があり、エッジ感も効く2×5スポークは軽快な印象。多彩なカラーバリエも大きな魅力



↑
スペックの詳細はコチラ!

■SIZE&PRICE

18インチ (7.0~12.5) ●¥64,000~¥100,000
19インチ (7.5~12.5) ●¥75,000~¥110,000
20インチ (8.0~12.5) ●¥86,000~¥120,000
21インチ (8.5~12.5) ●¥103,000~¥144,000

■COLOR

マットブラック、マットシルバー、ブラッシュド、コンボジットバフブラッシュド、バフフィニッシュ

WORKZISTANCE W5S

[ワークジスタンス・ダブルユーファイブエス]

ジャパニーズVIPにふさわしい存在感

VIPセダンを重厚に飾るワークジスタンスの2017モデル。オーソドックスかつ普遍的な5スポークデザインが採用された3ピースで、迫力あるディープリムとのパワフルなコンビがインパクト大。リムの選択肢が豊富なのも魅力

■SIZE&PRICE

19インチ (7.5~13.0) ●¥85,500~¥105,000
20インチ (7.5~13.0) ●¥95,500~¥114,000
21インチ (7.5~12.0) ●¥110,500~¥126,000

■COLOR

ブリリアントシルバーブラック、ブラック、ゴールド



ゴールド (S/W)



ブラック (S/W)



ブリリアントシルバーブラック (O/H)



ゴールド (O/H)



ブラック (O/H)



↑
スペックの詳細はコチラ!



ブリリアントシルバーブラック (S/W)



Text ● 酒井賢次 撮影 ● オマドーン

ワーク・サテライトショップ (スーパーオートバックス・ナゴヤベイ内)

ワーク渾身の作品が ズラリと並ぶサテライトショップ

ワークの世界観に触れる日本でも唯一の常設ショップ。日本の真ん中である名古屋に店舗を構えるスーパーオートバックス・ナゴヤベイ。コアなドレスアップにも積極的な実力店として人気だが、実はそのナゴヤベイの中に、ワークの日本唯一となるサテライトショップを構えている。

ここにはスポーツ系からカジュアル系まで、ワークが展開するさまざまなジャンルのホイールたちがズラリ。一般的な店舗では目にする事ができない、カラーサンブルや分解展示なども用意。ワークの世界観と商品に直接触れられる、貴重な空間となっている。

ナゴヤベイの鈴木マネージャーによると「ワークの商品はクオリティが高く安心で、しかも人気さまざまデザインとカラーバリエーションを実際に目で見て確認できることが最大の利点で、休日などにはワークのスタッフがいろいろと説明をしてくれるので、安心して購入できる」と話している。



スーパーオートバックス・ナゴヤベイ
セールスマネージャー
鈴木 肇氏

↑「普通のショップでは見ることのできない銘柄やカラーなども、幅広く用意しています。実際の色を、ぜひ見に来てください!」



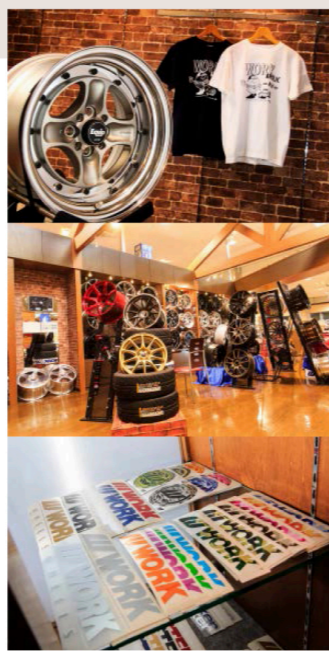
ホイールの分解やワンオフのサンプルも展示
↑↑ショップ内にはホイールの分解展示や、ワンオフメニューのサンプルも展示。雰囲気はさながら、ショー会場のワークブースだ



必見のカラーサンプルが確認できる
↑↑言葉や写真ではなかなか伝わりづらいカラーも、ここでは実物やサンプルが展示されているから安心。色味を確認できる貴重な空間



旬のアイテムがズラリ!
↑ワークの商品に特化しているから、最新作なども早期に入荷しやすい。展示はもちろんオールジャンル。狙う1本を直接確認できる



愛知県名古屋市中区木場町9番地51
☎:052-693-2002
営:10:00~21:00 休:不定休

RYVER F015

[レイバー・エフ015]

オーラのある硬質感が魅力の15本フィン

1ピースならではの武器を究極まで研ぎ澄まし、素材の硬質感を表現することにもこだわったのがレイバー。細くしなやかな印象の15本フィンとなるF015は、視覚的大口径感に長け、エレガントさ満点。アンダーカットも採用、立体的

■SIZE&PRICE
19インチ (8.5・9.5) ●¥40,000~¥44,000
20インチ (8.5・9.5) ●¥46,000~¥50,000
■COLOR
ブラックメタリックカットリム、
ハイパーシルバーミラーカット



ブラックメタリック
カットリム

↑↑スペックの詳細はコチラ!



ハイパーシルバー
ミラーカット



ハイパーシルバー
ミラーカット

ブラックメタリック
カットリム



RYVER S005

[レイバー・エス005]

伸びやかで美しい5スポークモデル

レイバーからは普遍的なスタンダードデザイン、5本スポークのS005も登場。スポーク先端を末だがり形状とした安定感あるフォルムで、その先端がリムと同化するため1ピースらしい大口徑感もしっかり。シンプルに美しい1ピースだ

↑↑スペックの詳細はコチラ!



■SIZE&PRICE
19インチ (8.5・9.5) ●¥40,000~¥44,000
20インチ (8.5・9.5) ●¥46,000~¥50,000
■COLOR
ハイパーシルバーミラーカット、
ブラックメタリックカットリム

RYVER M009

[レイバー・エム009]

素材の美しさを表現したプレミアムメッシュ

レイバーの2017年モデル3作で、最もスポーティに振ったラフメッシュ形状となるのがM009。エッジの効いた繊細な装いは、かといってスパルタンではなく、プレミアム感も漂ってくる。リム奥にはアンダーカットポリッシュも採用

■SIZE&PRICE
19インチ (8.5・9.5) ●¥40,000~¥44,000
20インチ (8.5・9.5) ●¥46,000~¥50,000
■COLOR
ハイパーシルバーミラーカット、
ブラックメタリックカットリム



ハイパーシルバー
ミラーカット

↑↑スペックの詳細はコチラ!



ブラックメタリック
カットリム



スーパークロム
メッキ

ブラック



LS CHIAREZZA SUV

[エルエス・キアレツァ・エスユーブイ]

ラグジュアリーを実現する決定打的ホイール

人気のLS207をリデザインしたラグジュアリーど真ん中のSUV向けモデル。ディッシュとスポークの中間のような独特のフェイスデザインと、スーパークロムの輝きとで華やかな足元を作り出す1本だ。精悍にキマるブラックも必見

↑↑スペックの詳細はコチラ!



■SIZE&PRICE
20インチ (8.5~11.0) ●¥81,000~¥106,000
22インチ (8.0~11.5) ●¥149,000~¥183,000
24インチ (8.5~12.0) ●¥220,000~¥275,000
■COLOR
スーパークロムメッキ、カムシルバー、ブラック



理想をかなえる
未来がある。



WORK®



問ワーク <http://www.work-wheels.co.jp/>

☎048・688・7555 (東日本コールセンター) / ☎052・777・4512 (中日本コールセンター) / ☎06・6746・2859 (西日本コールセンター)